

6 平成29年の自殺の状況

(1) 平成29年における自殺の概要

平成29年における我が国の自殺の状況について、自殺統計によると（第1-16表）、29年の自殺者数（第1-16-1表）は2万1,321人で、前年に比べ576人（2.6%）減少した。性別では、男性が1万4,826人で全体の69.5%を占めた。

年齢別の状況についてみると（第1-16-2表）、「40歳代」が3,668人で全体の17.2%を占め、次いで「50歳代」（3,593人、16.9%）、「60歳代」（3,339人、15.7%）、「70歳代」（2,926人、13.7%）の順となっている。前年と比べて、20歳代以上の全ての年齢階級で自殺者数が減少している。

職業別の状況についてみると（第1-16-3表）、「無職者」が1万2,280人で全体の57.6%を占めて最も多く、次いで「被雇用者・勤め

人」（6,432人、30.2%）、「自営業・家族従業者」（1,445人、6.8%）、「学生・生徒等」（817人、3.8%）の順となっており、この順位は前年と同じである。前年と比べて、「自営業・家族従業者」及び「無職者」で自殺者数が減少している。

原因・動機別の状況についてみると（第1-16-4表）、原因・動機特定者は1万5,930人（74.7%）であり、そのうち原因・動機が「健康問題」にあるものが1万778人で最も多く、次いで「経済・生活問題」（3,464人）、「家庭問題」（3,179人）、「勤務問題」（1,991人）の順となっており、この順位は前年と同じである。また、前年と比べて、「家庭問題」、「健康問題」、「経済・生活問題」で自殺者数が減少している。

第1-16表 自殺者の年次比較

第1-16-1表 総数

(単位：人)

	総数			成人			少年			不詳		
		男	女		男	女		男	女		男	女
平成29年 (構成比)	21,321 (100.0%)	14,826 (69.5%)	6,495 (30.5%)	20,698 (100.0%)	14,381 (69.5%)	6,317 (30.5%)	567 (100.0%)	396 (69.8%)	171 (30.2%)	56 (100.0%)	49 (87.5%)	7 (12.5%)
平成28年 (構成比)	21,897 (100.0%)	15,121 (69.1%)	6,776 (30.9%)	21,300 (100.0%)	14,699 (69%)	6,601 (31%)	520 (100.0%)	354 (68.1%)	166 (31.9%)	77 (100.0%)	68 (88.3%)	9 (11.7%)
増減数 (構成比)	-576 -	-295 (0.4)	-281 (-0.4)	-602 -	-318 (0.5)	-284 (-0.5)	+47 -	+42 (1.7)	+5 (-1.7)	-21 -	-19 (-0.8)	-2 (0.8)
増減率(%)	-2.6	-2.0	-4.1	-2.8	-2.2	-4.3	9.0	11.9	3.0	-27.3	-27.9	-22.2

第1-16-2表 年齢階級別自殺者数

(単位：人)

	総数	少年	成人							不詳
		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	
平成29年 (構成比)	21,321 (100.0%)	567 (2.7%)	2,213 (10.4%)	2,703 (12.7%)	3,668 (17.2%)	3,593 (16.9%)	3,339 (15.7%)	2,926 (13.7%)	2,256 (10.6%)	56 (0.3%)
平成28年 (構成比)	21,897 (100.0%)	520 (2.4%)	2,235 (10.2%)	2,824 (12.9%)	3,739 (17.1%)	3,631 (16.6%)	3,626 (16.6%)	2,983 (13.6%)	2,262 (10.3%)	77 (0.4%)
増減数 (構成比)	-576 -	+47 (0.3)	-22 (0.2)	-121 (-0.2)	-71 (0.1)	-38 (0.3)	-287 (-0.9)	-57 (0.1)	-6 (0.3)	-21 (-0.1)
増減率(%)	-2.6	9.0	-1.0	-4.3	-1.9	-1.0	-7.9	-1.9	-0.3	-27.3

第1-16-3表 職業別自殺者数

(単位：人)

	総数	自営業・ 家族従業者	被雇用者・ 勤め人	無職		不詳
				学生・生徒等	無職者	
平成29年 (構成比)	21,321 (100.0%)	1,445 (6.8%)	6,432 (30.2%)	817 (3.8%)	12,280 (57.6%)	347 (1.6%)
平成28年 (構成比)	21,897 (100.0%)	1,538 (7%)	6,324 (28.9%)	791 (3.6%)	12,874 (58.8%)	370 (1.7%)
増減数 (構成比)	-576 -	-93 (-0.2)	+108 (1.3)	+26 (0.2)	-594 (-1.2)	-23 (-0.1)
増減率(%)	-2.6	-6.0	1.7	3.3	-4.6	-6.2

表1-16-4表 原因・動機別自殺者数

(単位：人)

	総数	原因・動機 特定者	原因・動機 不特定者
平成29年 (構成比)	21,321 (100.0%)	15,930 (74.7%)	5,391 (25.3%)
平成28年 (構成比)	21,897 (100.0%)	16,297 (74.4%)	5,600 (25.6%)
増減数 (構成比)	-576 -	-367 (0.3)	-209 (-0.3)
増減率(%)	-2.6	-2.3	-3.7

(単位：人)

	原因・動機特定者の原因・動機別						
	家庭問題	健康問題	経済・ 生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他
平成29年	3,179	10,778	3,464	1,991	768	329	1,172
平成28年	3,337	11,014	3,522	1,978	764	319	1,148
増減数	-158	-236	-58	13	4	10	24
増減率(%)	-4.7	-2.1	-1.6	0.7	0.5	3.1	2.1

注) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(平成28年は16,297人、29年は15,930人)とは一致しない。

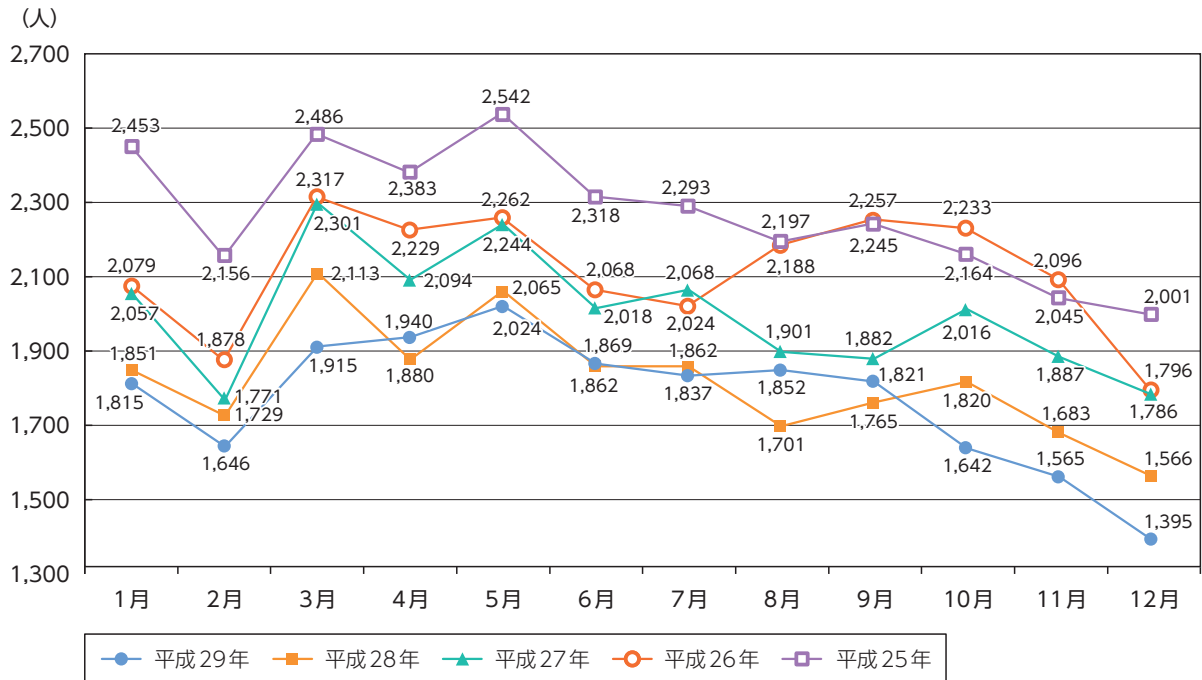
資料：厚生労働省・警察庁「平成29年中における自殺の状況」

(2) 月別自殺者数の推移

平成29年における月別自殺者数の推移をみると、自殺統計によれば（第1-17図）、「5月」が最も多く、「12月」が最も少なくなっ

ている。12月の自殺者数は1,395人で、月別自殺者数を公表している20年以降の月の中で最も少ない。また、4、6、8、9月を除く各月で前年の自殺者数を下回った。

第1-17図 月別自殺者数の推移

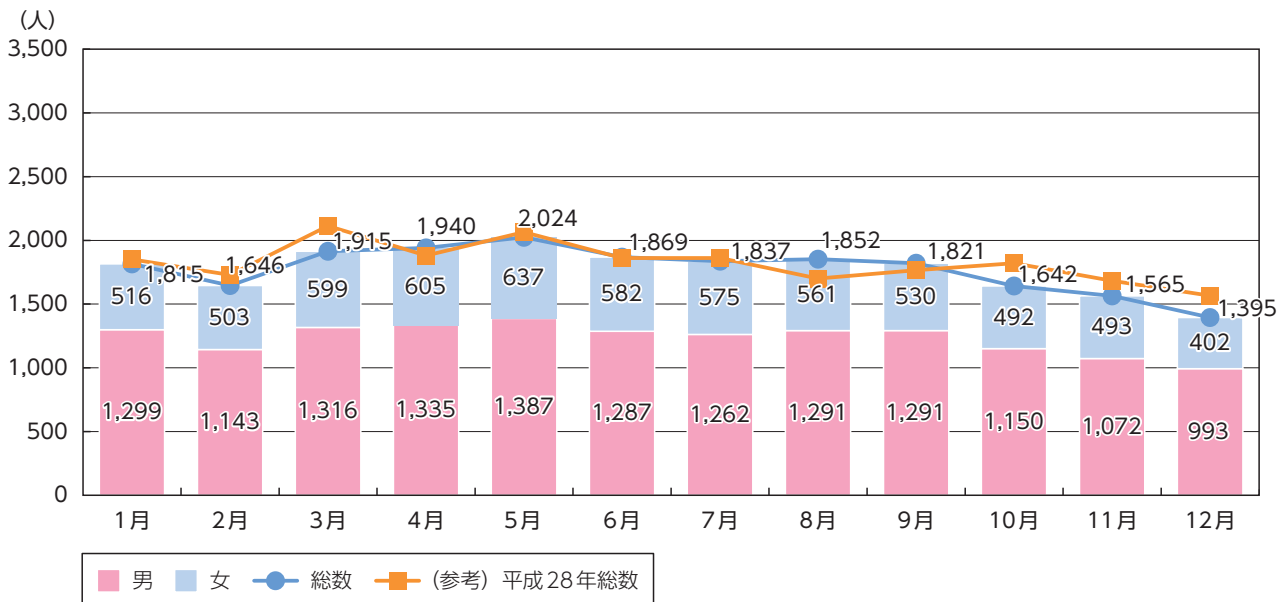


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

また、男女別の月別の自殺者数の推移をみると、自殺統計によれば（第1-18図）、男性も女性も「5月」に自殺者数が最も多くなっ

ている。また、男性も女性も「12月」に自殺者数が最も少なくなっている。

第1-18図 平成29年における死亡月別の自殺者数



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

1か月間の日数の影響を排除するため、平成29年における月別の一日平均自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-19図）、「5

月」が最も多くなっており、「12月」が最も少なくなっている。

第1-19図 平成29年における月別の一日平均自殺者数



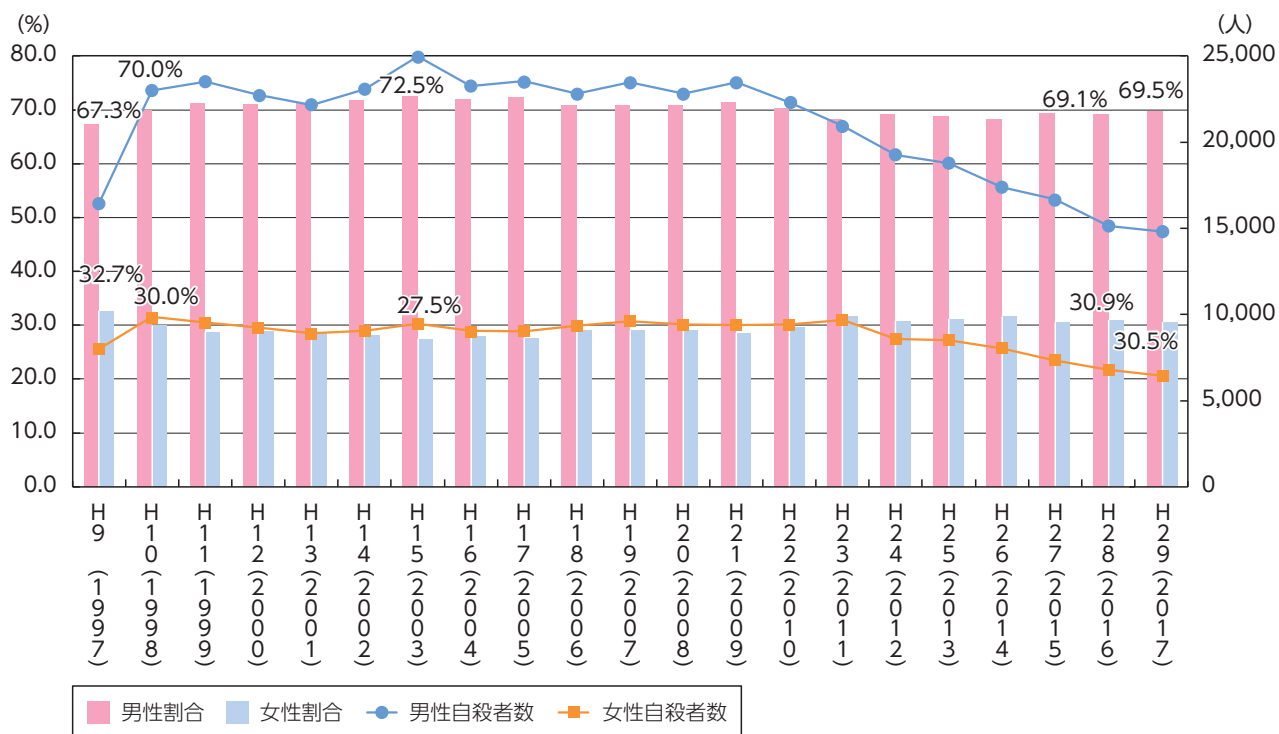
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(3) 男女別の状況

平成29年における男女別の自殺者の状況をみると、自殺統計によれば（第1-20図）、自殺者全体の男女別構成比は男性が69.5%となっており、男性がほぼ7割を占めている。

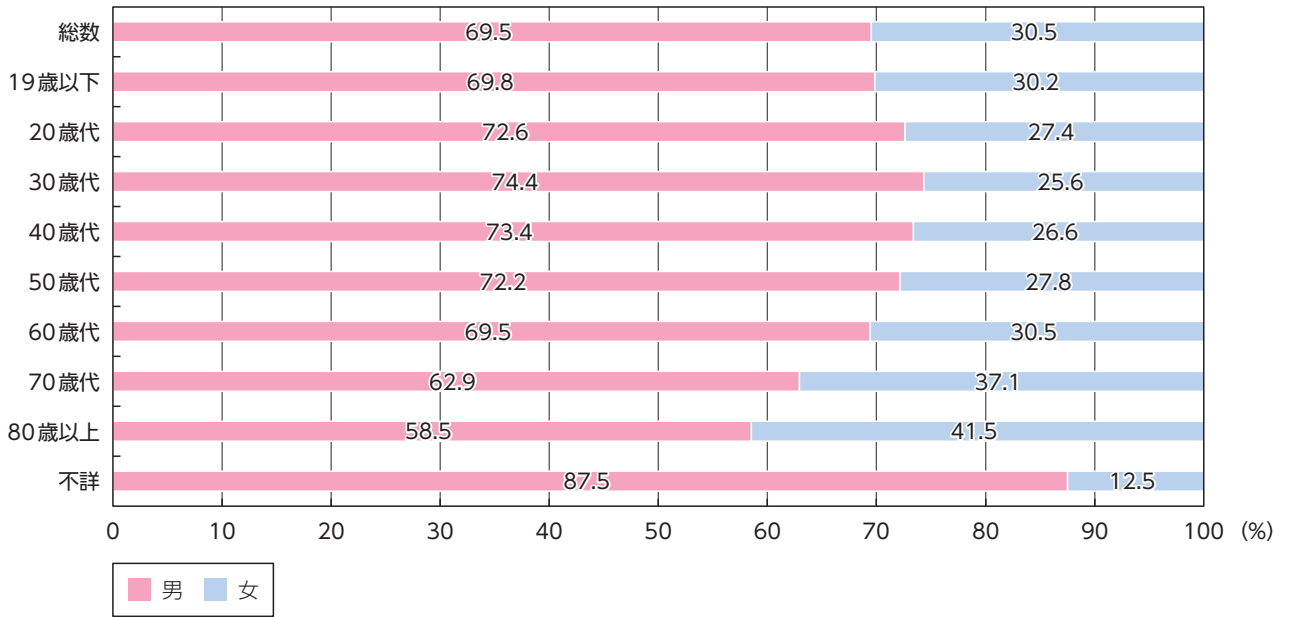
また、年齢階級別にみると（第1-21図）、全ての階級において男性の占める割合が高く、特に20歳代から50歳代までは男性が7割を超えている。

第1-20図 自殺者の男女別構成比の推移



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

第1-21図 平成29年における男女別の年齢階級別の自殺者数の構成割合



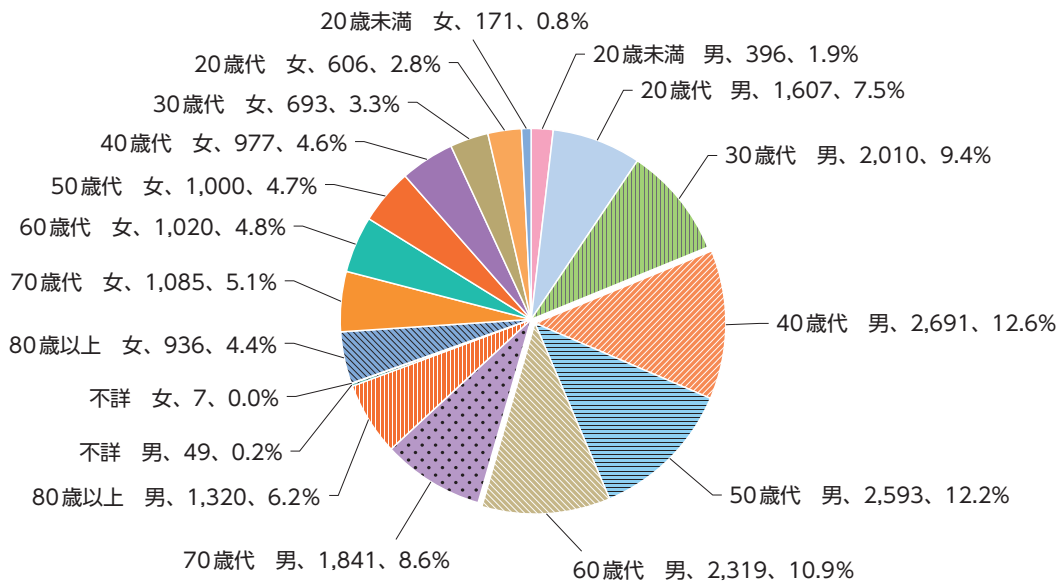
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(4) 年齢階級別の状況

平成29年における年齢階級別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-22図）、(1)

で述べたとおり40歳代が最も多いが、さらに、男女別でみると、40歳代から60歳代の男性で全体の約3分の1を占めている。

第1-22図 平成29年における男女別の年齢階級別の自殺者数の構成割合



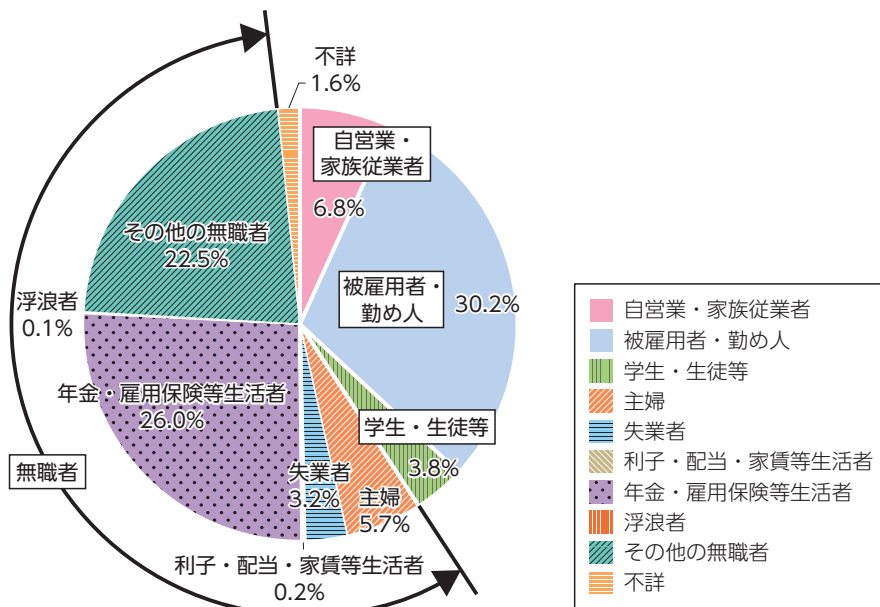
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(5) 職業別の状況

平成29年の職業別の自殺の状況を見ると、自殺統計によれば（第1-23図）、(1)で述べたとおり「無職者」が最も多い。「無職者」の

内訳をみると、「年金・雇用保険等生活者」が最も多く、次いで「その他の無職者」、「主婦」、「失業者」の順となっている。

第1-23図 平成29年における職業別自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

さらに、年齢別、職業別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-24表）、総数では「40歳代」から「60歳代」が3,500人前後となっており、自殺者数が多くなっている。「自営業・家族従業者」では「50歳代」と「60歳代」、「被雇用者・勤め人」では「30歳

代」から「50歳代」、「無職者」では「60歳代」以上が多いなど、職業によって自殺者数の多い年代は異なる。なお、「無職者」のうち最も割合の高い「年金・雇用保険等生活者」は「70歳代」と「80歳以上」において、それぞれ1,800人前後となっている。

第1-24表 年齢階級別、職業別自殺者数

年齢階級別、職業別自殺者数

(単位：人)

職業別		年齢階級別										
		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	合計	
合計	計	567	2,213	2,703	3,668	3,593	3,339	2,926	2,256	56	21,321	
	男	396	1,607	2,010	2,691	2,593	2,319	1,841	1,320	49	14,826	
	女	171	606	693	977	1,000	1,020	1,085	936	7	6,495	
自営業・家族従業者	計		37	149	271	336	376	207	69		1,445	
	男		33	134	243	299	325	175	65		1,274	
	女		4	15	28	37	51	32	4		171	
被雇用者・勤め人	計	60	1,106	1,351	1,725	1,420	617	137	16		6,432	
	男	46	860	1,122	1,425	1,206	527	115	14		5,315	
	女	14	246	229	300	214	90	22	2		1,117	
無職	学生・生徒等	計	456	350	9	2						817
		男	310	257	8	2						577
		女	146	93	1							240
無職	無職者	計	49	694	1,140	1,603	1,769	2,296	2,562	2,166	1	12,280
		男	38	437	704	965	1,031	1,424	1,535	1,238		7,372
		女	11	257	436	638	738	872	1,027	928	1	4,908
	主婦	計		28	113	242	347	293	144	48		1,215
		女		28	113	242	347	293	144	48		1,215
	失業者	計		73	136	195	212	55	6	1		678
		女		63	114	172	191	54	5	1		600
	年金・雇用保険等生活者	計		38	84	187	227	1,242	1,978	1,778		5,534
		女		19	49	112	143	838	1,248	1,038		3,447
	その他の無職者	計		19	35	75	84	404	730	740		2,087
		女		19	35	75	84	404	730	740		2,087
	不詳	計	49	553	805	969	964	691	423	335	1	4,790
男		38	353	540	671	681	520	275	197		3,275	
女		11	200	265	298	283	171	148	138	1	1,515	
不詳	計	2	26	54	67	68	50	20	5	55	347	
	男	2	20	42	56	57	43	16	3	49	288	
	女		6	12	11	11	7	4	2	6	59	

注) 無職者のうち、主婦、失業者、年金・雇用保険等生活者、その他の無職者の4区分については当該区分の数値のみ無職者の内数として別立てで表記しているため、無職者の総数と上記4区分の数値の合計は一致しない。

資料：厚生労働省・警察庁「平成29年中における自殺の状況」

(6) 原因・動機別の状況

平成29年における年齢別、原因・動機別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-25表）、「家庭問題」は男女ともに「40歳代」が多い。「健康問題」については、男女ともに「60歳代」と「70歳代」が多い。「経済・生活問題」については、男性の方が女性

よりも著しく多く、中でも「40歳代」と「50歳代」が多い。「勤務問題」については、「20歳代」から「50歳代」で多く、男性は「40歳代」で特に多く、女性は「20歳代」から「40歳代」が多い。「男女問題」は「20歳代」から「40歳代」が多い。

第1-25表 年齢階級別、原因・動機別自殺者数

年齢階級別、原因・動機別自殺者数

(単位：人)

年齢階級別 原因・動機別		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	合計
合計	計	488	2,262	2,836	3,950	3,827	3,361	2,872	2,079	6	21,681
	男	317	1,573	2,092	2,866	2,770	2,287	1,742	1,173	4	14,824
	女	171	689	744	1,084	1,057	1,074	1,130	906	2	6,857
家庭問題	計	91	231	439	635	572	432	419	360		3,179
	男	49	146	300	433	391	267	238	206		2,030
	女	42	85	139	202	181	165	181	154		1,149
健康問題	計	93	783	1,113	1,636	1,759	1,931	1,977	1,482	4	10,778
	男	49	448	689	982	1,061	1,166	1,130	831	2	6,358
	女	44	335	424	654	698	765	847	651	2	4,420
経済・生活問題	計	14	308	523	761	859	665	270	63	1	3,464
	男	11	275	480	691	770	590	216	44	1	3,078
	女	3	33	43	70	89	75	54	19		386
勤務問題	計	24	403	420	563	433	116	27	5		1,991
	男	21	339	370	510	397	100	27	4		1,768
	女	3	64	50	53	36	16		1		223
男女問題	計	47	242	195	177	63	27	16	1		768
	男	26	139	139	110	39	18	15			486
	女	21	103	56	67	24	9	1	1		282
学校問題	計	169	156	2	2						329
	男	124	121	2	2						249
	女	45	35								80
その他	計	50	139	144	176	141	190	163	168	1	1,172
	男	37	105	112	138	112	146	116	88	1	855
	女	13	34	32	38	29	44	47	80		317

注) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数（15,930人）とは一致しない。

資料：厚生労働省・警察庁「平成29年中における自殺の状況」

職業別、原因・動機別の状況をみると、自殺統計によれば（第1-26表）、「自営業・家族従業者」は「経済・生活問題」と「健康問題」が多く、「被雇用者・勤め人」は「健康

問題」と「勤務問題」が多い。「学生・生徒等」は「学校問題」と「健康問題」が多く、「無職者」は「健康問題」が多い。

第1-26表 職業別、原因・動機別自殺者数

職業別、原因・動機別自殺者数

(単位：人)

原因・動機別	職業別	自営業・ 家族従業者	被雇用者・ 勤め人	無職					不詳	
				学生・生徒等	無職者	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者		その他の無職者
合計	計	1,608	6,905	759	12,229	1,274	808	5,439	4,650	180
	男	1,402	5,636	515	7,135		712	3,273	3,107	136
	女	206	1,269	244	5,094	1,274	96	2,166	1,543	44
家庭問題	計	234	1,053	113	1,761	260	79	788	626	18
	男	193	815	69	943		72	455	410	10
	女	41	238	44	818	260	7	333	216	8
健康問題	計	513	2,207	154	7,838	921	271	3,888	2,730	66
	男	411	1,640	88	4,176		221	2,278	1,658	43
	女	102	567	66	3,662	921	50	1,610	1,072	23
経済・生活問題	計	625	1,176	52	1,546	37	347	370	773	65
	男	591	1,085	40	1,301		322	283	679	61
	女	34	91	12	245	37	25	87	94	4
勤務問題	計	130	1,685	7	164	4	48	20	92	5
	男	119	1,507	5	133		43	18	72	4
	女	11	178	2	31	4	5	2	20	1
男女問題	計	48	440	67	201	19	23	35	123	12
	男	40	305	41	92		16	17	59	8
	女	8	135	26	109	19	7	18	64	4
学校問題	計		3	303	23				23	
	男		3	228	18				18	
	女			75	5				5	
その他	計	58	341	63	696	33	40	338	283	14
	男	48	281	44	472		38	222	211	10
	女	10	60	19	224	33	2	116	72	4

注) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(15,930人)とは一致しない。

注) 無職者のうち、主婦、失業者、年金・雇用保険等生活者、その他の無職者の4区分については当該区分の数値のみ無職者の内数として別立てで表記しているため、無職者の総数と上記4区分の数値の合計は一致しない。

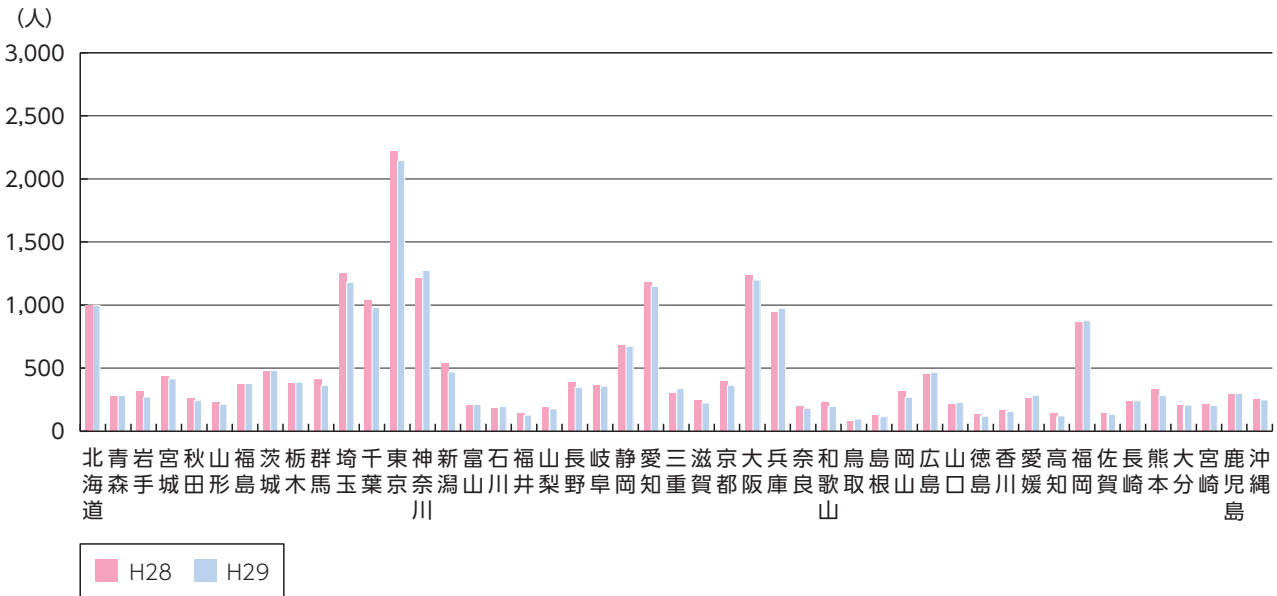
資料：厚生労働省・警察庁「平成29年中における自殺の状況」

(7) 都道府県別の状況

平成29年における都道府県別の自殺の状況をみると、自殺統計によれば、自殺者数につ

いては（第1-27図）前年に比べ、30都道府県で減少、17県で増加となっている。

第1-27図 都道府県別の自殺者数

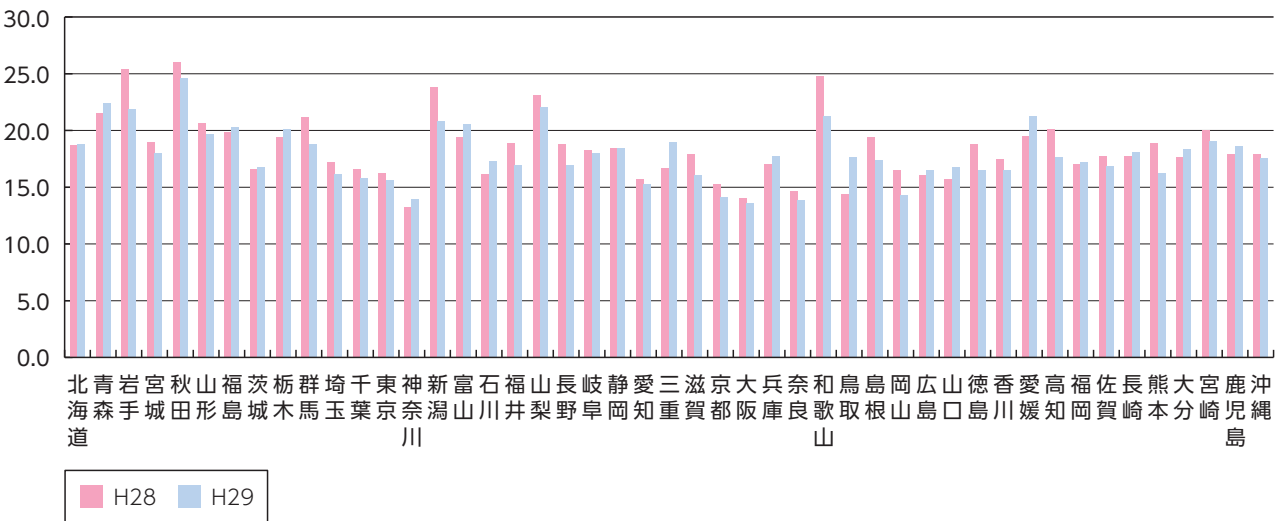


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

また、自殺死亡率についてみると（第1-28図）、前年に比べ、29都府県で低下、18道県

で上昇となっている。

第1-28図 都道府県別の自殺死亡率



資料：警察庁「自殺統計」、総務省「人口推計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(8) 手段別の状況

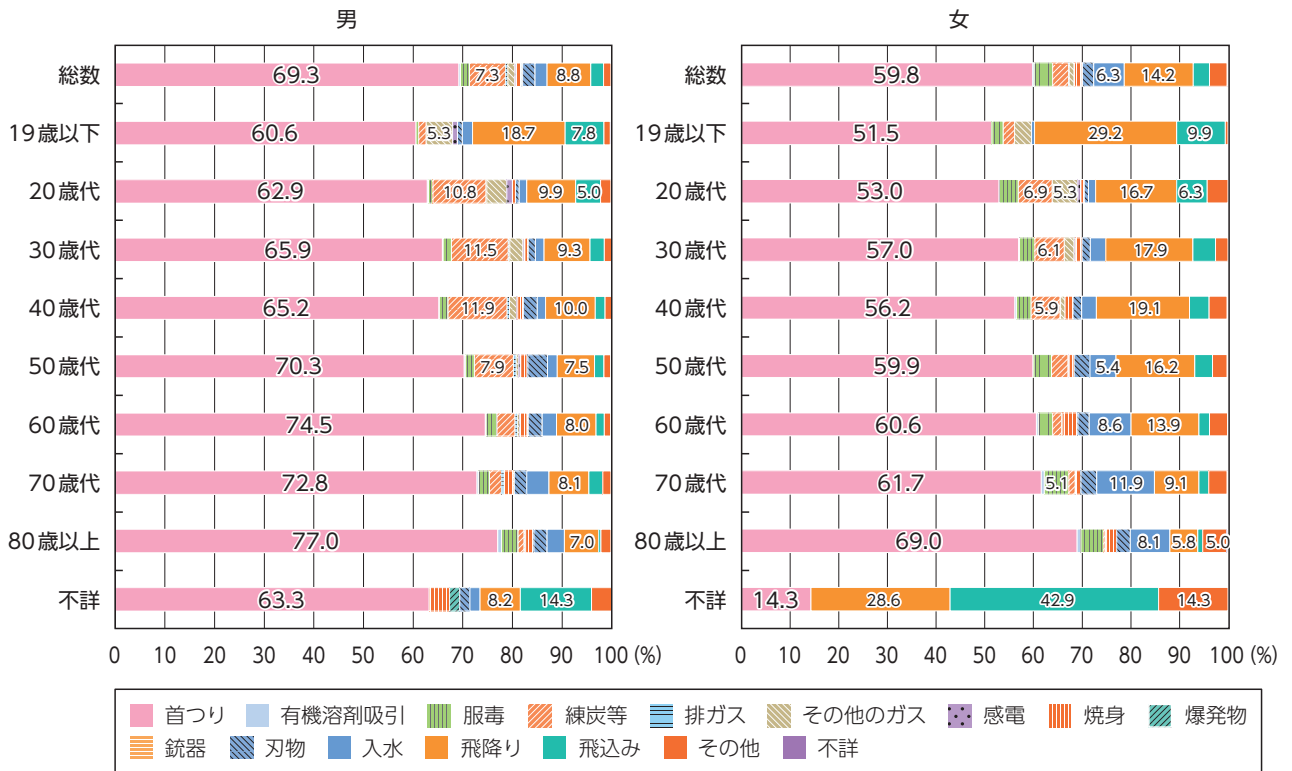
平成29年における手段別の自殺の状況についてみると（第1-29図）、男性では「首つり」（69.3%）が最も多く、次いで「飛降り」（8.8%）、「練炭等」（7.3%）となっており、女性では「首つり」（59.8%）が最も多く、次いで「飛降り」（14.2%）、「入水」（6.3%）となっている。

また、男女別・年齢階級別でみると、男女とも全ての階級で「首つり」が最も多い。男

性については、「首つり」に次いで、19歳以下では「飛降り」、「飛込み」の順で多く、20歳代から50歳代では「練炭等」、「飛降り」の順で多くなっており、60歳代では「飛降り」、「練炭等」、70歳代及び80歳以上では「飛降り」、「入水」の順で多くなっている。

女性については、「首つり」に次いで、60歳代以下では「飛降り」が多く、70歳代以上では「入水」が多くなっている。

第1-29図 平成29年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・自殺の手段別の自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

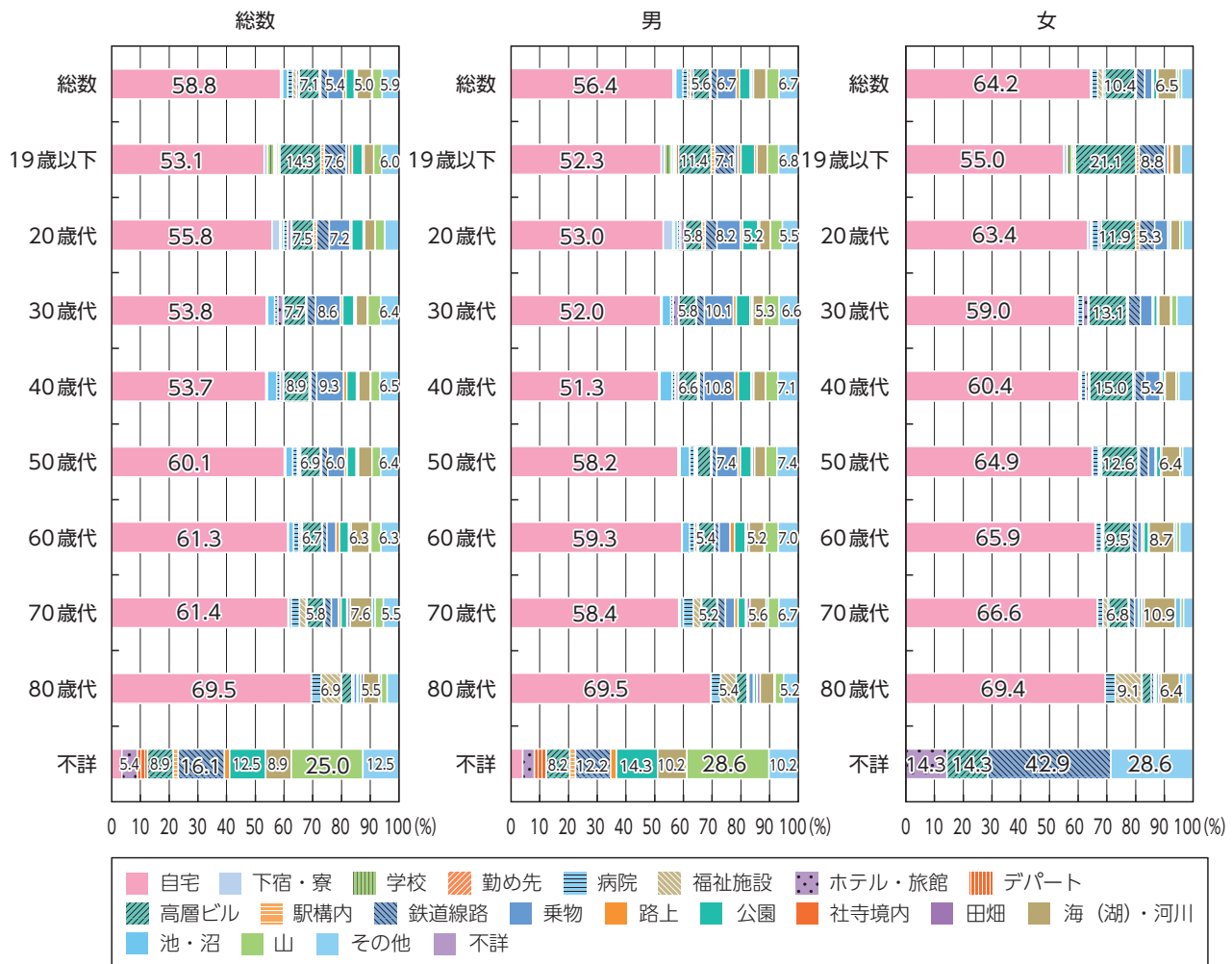
(9) 場所別の状況

平成29年における場所別の自殺の状況について、自殺統計によれば（第1-30図）、「自宅」（58.8%）が最も多く、「高層ビル」（7.1%）、「乗物」（5.4%）、「海（湖）・河川」（5.0%）などが比較的多くなっている。

男女別にみると、男性については、「自宅」（56.4%）、「乗物」（6.7%）、「高層ビル」（5.6%）などが多い。女性については、「自宅」（64.2%）、「高層ビル」（10.4%）、「海（湖）・河川」（6.5%）などが多い。

年齢階級別にみると、男女とも全ての階級において「自宅」が最も多いが、男性については、「自宅」に次いで、19歳以下及び60歳代では「高層ビル」、20歳代から50歳代までは「乗物」、70歳代は「海（湖）・河川」、80歳以上は「福祉施設」が多くなっている。女性についても、「自宅」に次いで、19歳以下から60歳代までは「高層ビル」、70歳代は「海（湖）・河川」、80歳以上は「福祉施設」が多くなっている。

第1-30図 平成29年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・自殺の場所別の自殺者数の構成割合



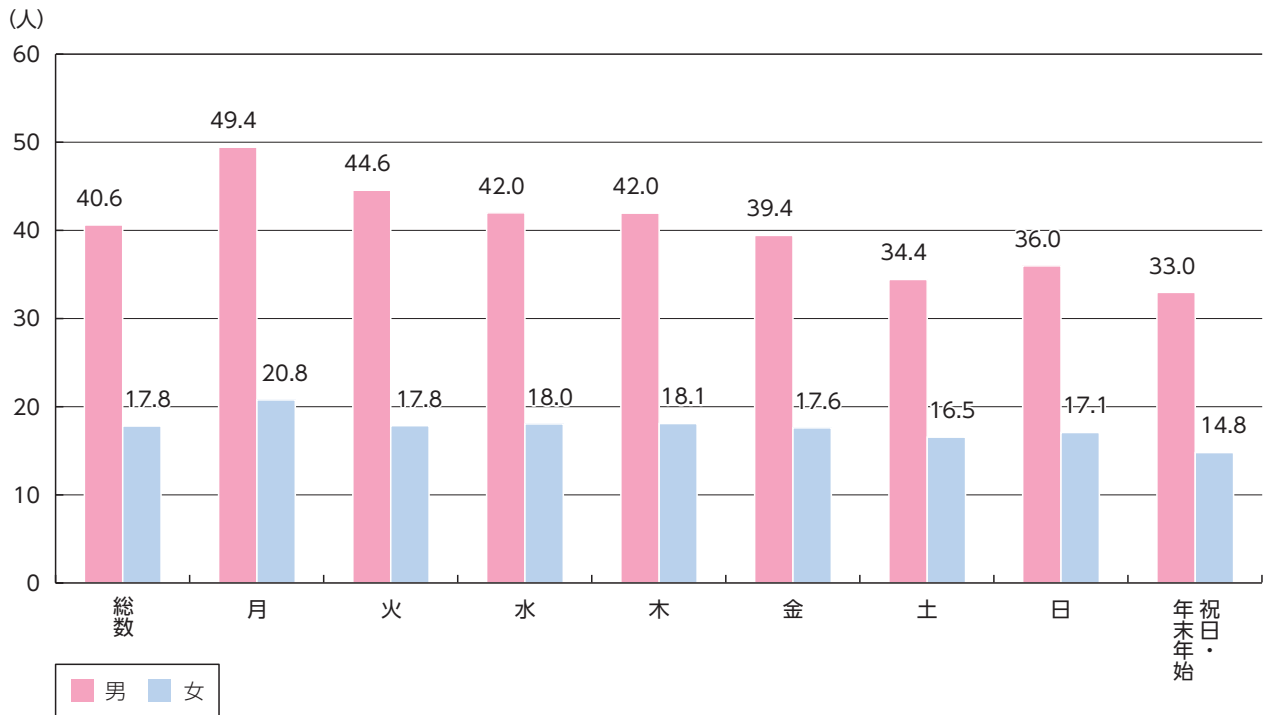
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(10) 曜日・時間別の状況

平成29年における発見曜日別一日平均自殺者数について、自殺統計によれば（第1-31図）、男性、女性ともに「月曜日」（男性49.4人、女性20.8人）が最も多く、男性は次いで

「火曜日」（44.6人）、女性は次いで「木曜日」（18.1人）が多くなっている。また、男女ともに「祝日・年末年始」（男性33.0人、女性14.8人）が最も少なくなっている。

第1-31図 平成29年における発見曜日別の一日平均自殺者数

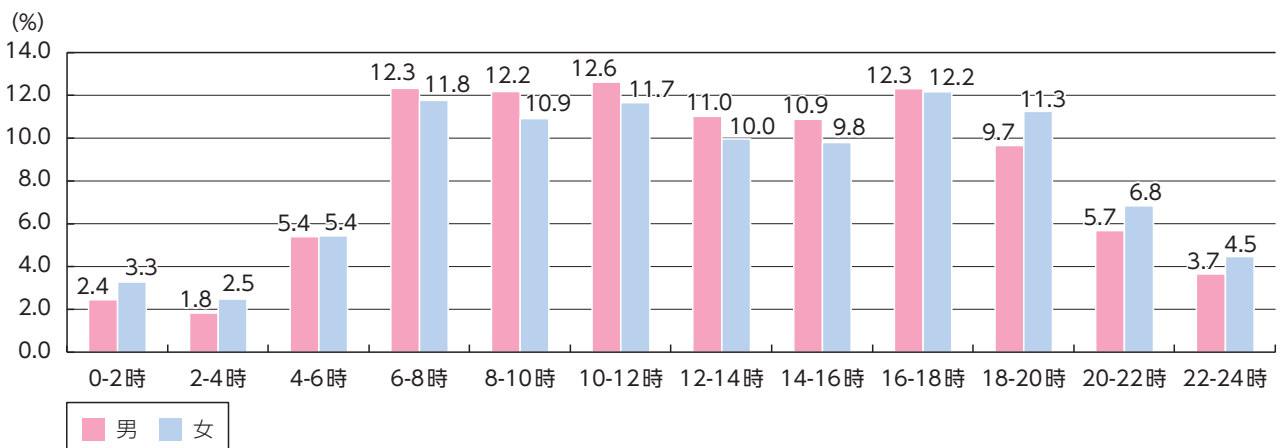


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

次に、男女別の発見時間帯別自殺者数の構成割合をみると（第1-32図）、男性は「10～

12時」（12.6%）、女性は「16～18時」（12.2%）が最も多くなっている。

第1-32図 平成29年における発見時間帯別の自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成